

●最大限の動きやすさと最小限の防寒

アナタはコミケットに参加する際に、どんな事を考えて着ていく服を選んでいるだろうか？
コミケットには一種のハレの日としての側面もあるので、とっておきの好きなブランドの服やキャラクターのグラフィックアパレルを着る機会、あるいは既製品のコーディネートであるキャラクターの服装を再現するなどの遊び心で服を選ぶといった参加者も多いだろう。そしてそれ以上に普段着の延長、あるいは普段着そのままの服装で済ませる、という参加者が一番多いのではないだろうか？

しかし、コミケットの1日は、普段の1日とは大きく異なっているはずだ。その違いが最も顕著なのが、やはり待機時間だろう。冬に屋外で長時間じっと待つ（予定していなくても突発的な待機時間が生じる場合も多い）という事態を想定すると、かなり念入りの防寒が必要になるだろう。夏の熱中症ほどではないにしても、体温が下がりすぎれば体調を崩して動けなくなる場合もある。反面、ホール内での活動は日常の屋内（大きめの駅の中くらいを想像すればよい）と大差ないので、過剰な防寒装備は動きづらく、暑い、脱いでもかさばるのでその両立を考えねばならない。

●ポイントは『内厚外薄』

男女ともに、冬コミの環境に則した防寒を考えるとしたら、**なるべく全身を化繊（化繊混紡）のアンダーウェアで覆うのがベストだ**。待機時の保温と活動時の放熱という矛盾した要求を両立させるためには、待機時には体温を奪われないように、逆に活動時には汗をかきすぎないように体温を適切に逃がす必要がある。その解答が、保温性の高い薄いウェアで全身を覆い、上に着るものは薄めにして風通しをよく、さらにマフラーや手袋、カイロなどをサポートアイテムとして活用する、というメソッドだ。

保温をアンダーウェアに担わせることでその上に着込む全ての服を薄めのものにできるので動きやすく、今回の『ミニマム化』というテーマ的にも理に叶う。

逆に普段着の上から分厚い上着を着るという防寒だと待機時は各所の裾から寒気が侵入して寒く、動くと重ね着のせいで暑い上に肌に接している服が汗を吸って湿り、次に待機する時に短時間で身体を冷やしてしまうことになりかねないのでオススメできない。

●対冬コミ装備例（男性向け）



直射日光を遮るだけでなく、放熱面積の大きな頭部から体温を奪われるのを防ぐ防寒具としての役割もあるキャップは冬コミでもマスト装備。

襟首まわりは体温が逃げやすい防寒的最重視ポイント。いくら着込んでもここが開放されていると冷えは防げないためマフラーやネックウォーマーは必須だが、ハイネックのインナーなら保温力が高くその分持ち物を減らせるメリットもある。

上着は過剰に防寒性能の高いものはホール内に入ると一転暑くてたまらなくなり、脱いでも邪魔になるので動きやすさを再重視して選ぼう。ポケットの中身を落とすににくいレイアウトになっているかもチェック。

非常に気温が低い、あるいは長時間待機するなどにより保温力が欲しい場合は上着を厚くするより上着の下にベスト型の防寒具を着ておく方が保温性が高く、暑く感じたらベストだけを脱げば上着を脱ぐよりかさばらない。

化繊製の厚手&長めの靴下は保温性、速乾性に優れ、疲労軽減にもなるので強く推奨。長時間歩行を前提に作られたハイキングシューズやライトトレッキングシューズとのペアなら1日ガンガン歩ける！

男性には馴染みが薄いかもしれないが、タイツタイプのアンダーウェアは驚くほど防寒高価が高いのでぜひ試してみてください。